

2014 April No.227

百万石蝶談会

翔



奥獅子吼山周辺でアカエゾゼミ調査を実施

松 井 正 人

奥獅子吼山へは、金沢市や旧鶴来町から犀鶴峠まで車を利用し、ここから歩くと標高差も少なく1時間程でたどり着く。歩き出すと間もなく送電線の鉄塔下を通り抜け、薄暗い林内へと道は続いている。歩きやすい尾根道を進むと水はけが悪い大きなぬかるみが現れ、右に下る道が分岐している。ここが三宮峠と呼ばれる場所だろう。道は緩やかな登りとなりやがてゆっくり下ると眺望が開ける獅子吼平に出る。右へ進めば「宿の岩」、左は奥獅子吼山へと続き、左に進むとヒュッテ跡がある。昭和41年に鶴来山岳会が建てた奥獅子吼ヒュッテだが、昭和56年の豪雪で崩壊してしまった。奥獅子吼山を眺めて進むと、足下にナタデラカンアオイが目立つようになる。この界限には、ギフチョウが食草として利用できるヒメカンアオイ、ナタデラカンアオイ、ウスバサイシンが見られ、月惜峠周辺にはヒメやナタデラ、宿の岩周辺にはナタデラに交じってウスバサイシンが見られる。奥獅子吼山の三角点周辺の草地にはヨツバヒヨドリが見られ、時期になるとアサギマダラがぶら下がって吸蜜している。ブナ林の中に脚谷山方面への道は続き、7月下旬になるとコエゾゼミやエゾハルゼミが鳴き、それらをかき消す音量でヒグラシが鳴いている。

エゾゼミの仲間は、標高の上げるにしたがってエゾゼミ、アカエゾゼミ、コエゾゼミと生息しており、なかでもアカエゾゼミはブナ林など自然度が高い落葉広葉樹林に多いとされている。はたして奥獅子吼山界限にアカエゾゼミが生息するのか。奥獅子吼山までは大木もなく自然度の面からはちょっと厳しいが、可能性はあるので2013年に鳴き声トラップで調べることにした。

鳴き声トラップで問題になるのが1日の録音時間で、長いに越したことはないが、電池の寿命はおおよそ32時間しかなく、電池交換は7日に1回の休日にしかなれない。同じ場所を何度も往復したくないので、電池交換せずに14日間の調査を行うこととし、1日の録音時間を2時間10分にした。録音時間帯は、松井（2013）を参考にして、アカエゾゼミが最も良く鳴くと思われる9時～12時10分とした。セットする標高は、アカエゾゼミの声が良く観察されている標高を松井（2012）を参考にして800～850mとしたが、現地調査ではトラップが設置できる手頃な木がなかなか見つからず、ようやく設置できた標高は780mだった。

トラップ設置期間中は天候に恵まれ降雨は無く、エゾゼミ、コエゾゼミ、ヒグラシ、アブラゼミの声が録音されていたが、今回の調査目標だったアカエゾゼミは残念ながら見つからなかった。

報告するにあたり、調査地を調べる文献で御世話になった梅 典雅氏にお礼申し上げる。

■鳴き声トラップ

設置場所 石川県白山市白山町三宮峠と奥獅子吼山の間地点の尾根（標高780m）

設置期間 2013年8月3日～8月16日の14日間

録音時間 10時00分～12時10分（1日2時間10分）

録音器機 ICレコーダー（タイマー録音、MP3録音、単4アルカリ乾電池2本使用）

表1. 録音されたセミの声

日 付	エゾゼミ	コエゾゼミ	ヒグラシ	アブラゼミ
8月3日			○	
8月4日	○		○	
8月5日	○			
8月6日	○			
8月7日	○		○	
8月8日	○			
8月9日	○			
8月10日	○			
8月11日	○			
8月12日	○	○		
8月13日	○			
8月14日	○			○
8月15日	○	○		
8月16日	○	○		○

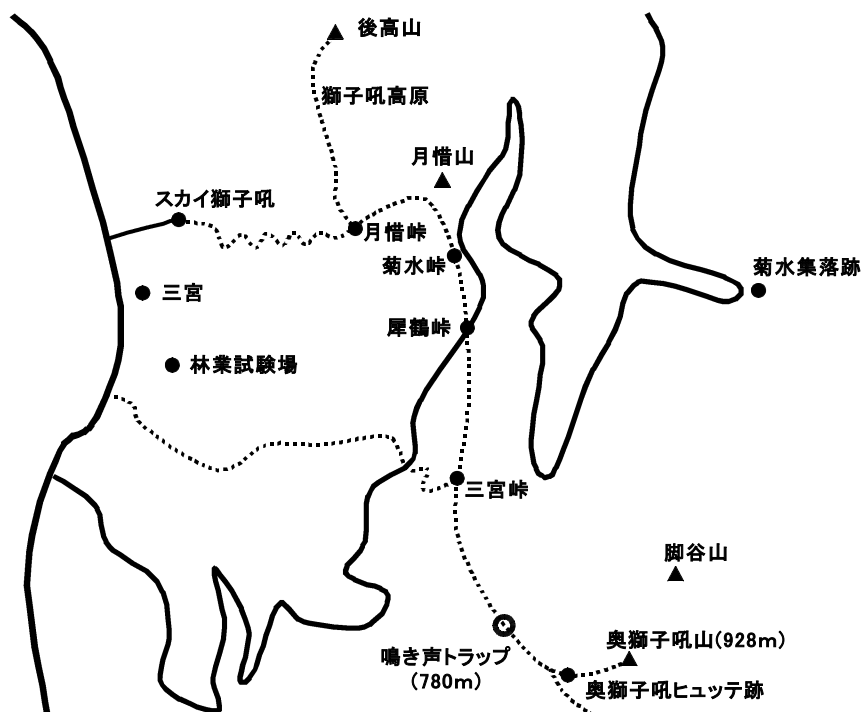


図1. 奥獅子吼山周辺図



図2. 鳴き声トラップ

奥獅子吼山までの登山道沿いに大木は無く、中でも大きなカエデの高さ2m付近に設置した。木に縛り付けた防水容器の中にICレコーダーがあり、外部マイクには雨除けのプラスチックコップが被せてある。

《 参考文献 》

- 平沢吉隆ほか（1977）宿の岩から獅子吼高原。なかお「犀奥（犀川源流）特集号」復刻版：33-35。
石川の山編集委員会（1993）後高山・奥獅子吼山。石川の山：160-162。
松井正人（2012）石川県各地でアカエゾゼミを観察。翔（216）：6-10。
松井正人（2013）自動録音によるセミの定点調査。翔（223）：6-8。
宮武頼夫・加納康嗣（1992）検索入門 セミ・バッタ。215pp。保育社。

《 まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15 》

表紙のむし - 湿地の虫達 -

湿地には他の環境では見ることのない様々な虫がいる。ハラビロトンボやハッチョウトンボなどのトンボ類をはじめとして、クロゲンゴロウなどの水生昆虫や、スゲ類の花粉を食するスゲハムシや、ミクリを食べるキンイロネクイハムシなどのネクイハムシの仲間達もいる。湿地こそが日本の原風景であり、そこにいる虫達は古代日本の「普通種」であったと私は考えているが、残念ながら湿地のような環境は現代日本では稀である。湿地は今もなお、開発などにより失われ続け、湿地の虫達は「絶滅危惧種」となった。

大宮正太郎

2012年蝶類採集（観察）報告

指 田 春 喜

本年も春先のギフ、ヒメギフと採集後は、風船の空気が抜けるように採集意欲が萎んでいき、気がつけば国内の採集シーズンが過ぎてしまった。代り映えもしないが、恒例であるので本年（2012年）の採集報告を以下に行う。

■愛知県瀬戸市上半田川 2012年4月16日 うす曇り

ギフチョウ 1♂

今年の春の訪れは、日本列島のどこでも遅く、北陸では特に顕著であり、4月に入っても小雪がパラつくなど、ギフの発生は最近になく、遅かった。

名古屋出身の会員I氏の案内を取り付け今年も出かけた。金沢を朝5時ちょうどの「しらさぎ」で名古屋に出、中央線の勝川駅で落ち合った。I氏がこれまでに採集経験がある場所を数か所回ったが、何せ天気が優れなかった。どうもこの日、天気が快晴でなかったのは、当方がネットを振った中京地区だけであった模様と何とも皮肉な結果であった。

■宮城県仙台市作並温泉 2012年4月20日

仙台在住の蝶友に今年のヒメギフの発生の状況とポイントを聞き、昨年の雪辱戦の青森と仙台とを組み合わせた。夜行寝台特急、ブルー・トレイン「日本海」が数か月前に廃止されてしまった。「昨年、乗っておいて良かった」との思いもあるが、金沢～青森のダイレクトの交通手段を取り上げられてしまったのである。そこで、苦肉の策として、往きがけの仙台でヒメギフを摘み、青森に乗り込むことにしたのである。

金沢～仙台的夜行バスは、往復で¥16,900円であり、仙台～青森は東北新幹線を利用した。宿・ホテルは、青森市内（青森まちなかおんせん・青森センターホテル）と浅虫温泉（昨年利用した観光旅館「秋田屋」）にネットで予約を入れた。

19日午後10時20分、金沢駅から夜行バスで仙台駅向かい、午前7時30分着。当初は表記作並温泉に仙台から仙山線で向かう予定であったが、完全なくもり空のため、新幹線で即青森に向かった。

■青森県青森市浅虫温泉谷地山 (alt. ca. 180 m) 2012年4月21～23日

天気も悪かったが、青森は、完全なフライングであった。今冬の青森は豪雪であり、この時期、市内の「雪捨て場」には、まだかなりの量が融けずに残っており、冬の雪の多さを思わせた。結局、予約しておいた宿泊を「天気が悪いから帰ります」と言ってキャンセルもできず、することもなく、酒を飲むこともできず、ただただ温泉に入り、持参の新書本でやり過ごすしかなかった。



谷地山に登ってみたものの陸奥の春は遠かった

■青森県青森市東岳山麓 (alt. ca. 500 m地点) 2012年5月6日 うす曇り

ヒメギフチョウ 5♂

「今年の青森の春は、例年より2週間は遅れている」と先に聞き、リベンジを行った。しかしながら、この連休期間中に先と同様な移動手段の確保は困難と思われたが、探せばあるものである。金沢～仙台の夜行バス（オリオンバス）がこの連休中限定で運行されていた。4列シートはやむを得なかったが、片道¥6,000円であり、当日隣の席は行き（5/3）帰り（5/6）とも空いていた。しかしながら、天候には見放され、仙台着の4日朝は、雨こそ降ってはなかったが、完全なくもり空であり、回復の見込みなし。そこで、時間もあまり過ぎるので仙台～青森間もまた高速バス（宮城交通）を利用した。4日の晩は、市内のホテルが確保できず、新青森駅前のサウナ「あおもり健康ランド」に宿泊。



青森工業高校後ろに東岳を望む

明けて5日も天気は芳しくなく、青森駅前7時30分の私営バス「上滝沢行き」に乗車、終点で下車。すぐの左手の山道（杉の造林中）、国道沿いなど、明日に備えてポイントの探索。青森センターホテル泊。

朝方の天気は悪くなかったが、これも10時頃までで、正午前には本降りの雨になってしまった。しかしながら、昨日の下調べが功を奏して、僅か15-20分ほど2回の晴れ間に4♂をネットできた。

バスを降りてすぐ左手の山道を10-15分ほど入るとすぐにポイントであった。「入山禁止」の立て札が数か所あり、気になり山仕事中の中高年夫婦に声をかけ、先に入って行った。あまり歓迎はされなかったが、入山を禁止はされなかった。午前9時半前、僅かに陽が当たり始めた瞬間、飛翔が目飛び込んできた。やや慌てるが、ネットイン。極めて新鮮な個体であり、ここにいることが確認でき、まずは一安心。「天気さえ良ければこれは採れる」と思ったとたんに陽が陰り始め、気温も下がってきた。座り込んでいると、地元の採集者（C氏）が上がって来、しばし情報をいただき、雑談。その後、11時前にまた僅かながら陽が射し、3♂を追加できた。C氏から採集の1♂をいただき、雨が本降りとなった午後はお宅にお邪魔させていただき、青森の蝶のコレクションを拝見でき、色々と情報を聞くことができたのは、この採集における一番の収穫であった。

夕方の東北新幹線で新青森から仙台に出、午後9:45発の仙台駅前からの夜行バスで予定通り、翌7日月曜の朝金沢に着いたが、疲れたなあー！（当たり前か）昔、若い時は、夜行で帰ってきたこの月曜日、朝一の講義をやったんだから、我ながら感心いたします。

■追記

5月の連休後は、週末も大学に出ることが多く、柄にもなく、やや真面目に仕事をした。そして、この青森には、カバイロシジミ、オオゴマシジミ狙いで7月の下旬にも出かけたかったが、5月に知り合ったC氏との日程調整がつかず、青森行きは叶わなかった。

その後は、8月11日からロンドンでの学会にでかけた。ロンドン・オリンピックの終盤にかぶっており、市内のホテルの混雑と宿泊代の高騰に度肝を抜かされた。当初計画していた帰国後すぐのインドネシア・カリマンタン行きは、当地が8月20日からラマダン明けになり、イスラム教徒のインドネシア人の多くも故郷に帰り、家族と過ごすらしく、鉄道がほとんどないインドネシアでは、この「民族の大移動」は、日本の想像を絶するらしく、外国人がノンビリ国内線を予約できるような状況ではないことを知らされ、あっさり中止と相成ってしまった。

それでも年末年始は、昨年に引き続きカリマンタンでの採集を行った。12月26日（水）午前10時に成田（ANA）を発ち、ジャカルタ（GARUDA）経由でスラバヤに一泊、翌27日LION AIRでバンジャルマシンの空港には夕方着き、そのまま迎えの車で採集地に向かった（約7時間）。採集地近くのロスメン（インドネシアの簡易宿泊所、1泊約¥500円）に着き、寝たのは日付が変わった午前1時半を過ぎていた。なお、採集成果については、なるべく早い時期に同行採集者たちと別にまとめる予定であり、ここでは述べない。

（さしだ はるき 〒920-0931 金沢市兼六元町11-27）

祝 カップル誕生

福 富 宏 和

能登のシャープゲンゴロウモドキ調査では20対1、三小牛でのホソハンミョウ採集では、1対0と、私が得意であるはずの採集で、今まで何度も後れを取ってきた大宮正太郎君に、とうとう大物を持っていかれた。

去る、2013年12月に、大宮君と井上昌子さんが結婚された。



オオゴマダラをも引き寄せる幸せオーラに包まれて

井上さんは傍から見てみると、派手ではないがとても真面目な器量良しで、こつこつと物事を進めるタイプで、某昆虫館の受付からも「お嫁さんに来て欲しい人No.1」との呼び声が高い好人物である。彼女も虫好きで、昨年の百万石蝶談会・石川むしの会合同新年会にも参加しているので、ご存知の方もいらっしゃると思う。好きな虫はクロカタゾウムシという、そんじょそらの女の子とは違う、魅力的な方なのだ。そして、昆虫館職員でもある。大宮君も昆虫館職員なので、そう、職場恋愛なのである！

今年の新年会後、むしの会の吉道俊一氏と吉村匡平氏と私による事情聴取によると、どうやら2年前から付き合っていて、ひたすら昆虫館では隠していたそうである。私は何度かつついてはいるものの、最後まで口を割らなかった。この秋に大宮君が引っ越した際も「おっ、いよいよ同棲生活？」と聞くも「いやいや、いや」と否定していた。件の井上さ

んをつついても「それがですねー、浮いた話はないのですよ」（この返しは、5回ぐらい聞いた）との返事で煙に巻かれていた。このあたりの彼らの情報統制の見事さは、これから貴重な昆虫を扱う際にも、十分に信頼に足る素晴らしいことだと思う。

上記事情聴取で、いろいろなことを喋らされた大宮君。もちろん終電は遠に過ぎているため新妻に車で迎えにきてもらっている！が、「君の尊厳を傷つける発言をしたかもしれない」と謝ったそうである。また、食後の皿洗いなども積極的にこなし「他に手伝うことある？」などと、よろしくやっているそうだ。単純に、うらやましい。また、シーズンには一緒に採集に行くなど、今後は共著での発表にも期待したい。

そんな、こんなで、虫好き同士のカップル誕生。最近、こういったおめでたい話しが少ない中、久しぶりに嬉しくなる出来事。なにはともあれ、お似合いのお二人。これからの新しい生活を、存分に楽しんでください！

《ふくとみ ひろかず 〒929-0212 白山市手取町コ54-5》

大宮氏に付き添われて白山調査

松 井 正 人

2013年8月、親子ほど歳の差がある大宮正太郎氏と白山高山帯の昆虫調査を行った。調査は、登山道を歩きながら観察したチョウを記録するライントランセクト調査と、お花畑に半日座ってチョウを観察する定点調査の2種類である。2009年から始まった調査で、これからも続けられることになっている。

予定は1泊2日。前日に別当出合駐車場に入り車中泊。早朝に出発し、9時から「殿ヶ池ヒュッテ→室堂」のライントランセクト調査を行い、2日目は8時から「観光新道馬のたてがみ」で定点調査の予定だった。ところが、別当出合で酒盛りをしているとカミナリが鳴り響き雨が降ってきた。翌日の回復を期待して眠りについたが、目覚めると止みそうにも無い大雨。予定を変更し、初日の調査はあきらめ砂防新道から登るだけとした。レインウェアに身を包み、汗をかかないよう、膝に負担が掛からないよう、ゆっくりと歩を進める。後を静かについてくる大宮氏が心強い。室堂に着いても雨は止まず、外出する気にもならない。ただただ天気回復を願い、毛布にくるまってゴロゴロ過ごす。2日目、天気回復はゆっくりとの予報に8時からの定点調査をあきらめ、9時出発の「室堂→殿ヶ池ヒュッテ」のライントランセクト調査に望みをつないだ。雨は9時前に上がり、気温は若干低かったもののライントランセクト調査はできた。



2日目の室堂前。雨は9時前に上がったもののガスが立ちこめレインウエアに身を包む大宮氏。



観光新道「馬のたてがみ」。天気が良ければクロボコ岩や別当出合、釈迦林道など360度の視界が開け、イブキトラノオ、タカネナデシコ、タカネマツムシなど百花繚乱のお花畑にクモマベニヒカゲが飛び回る。

登山は単独行が好きで、これまでの白山高山帯調査も単独行だったが、今回、大宮氏と出かけたのには訳があった。膝痛に悩まされていたのである。2012年の秋から左膝、2013年の春からは右膝にも痛みが走るようになった。山道をゆっくり歩くのは良いが、斜面を歩くと痛みだし、ちょっとでも膝をねじると激痛が走りしばしうずくまることになる。調査は続けられないと思い、大宮氏に引き継ぐのが目的だった。最後の山行と思い、故障した膝をだましだまし登ったのである。

雨で例年通りの調査はできなかったものの、これまでの調査内容を大宮氏に伝える事ができ、膝の痛みに悩まされることも無く無事降りてきたが、単独行のような山行に黙って静かに後からついてきてくれた大宮氏は、心強いサポートとなった。脚の萎えた年寄りに気を遣わせまいとの配慮が伝わりありがたかった。

ひとつ気になったのは、駐車場に戻ってからの事である。車にたどり付き、もう大丈夫と思ったのだろう。そそくさと山靴を履き替えたかと思うと、車に飛び乗り帰ってしまった。ひょっとすると、膝を痛めた年寄りに合わせてゆっくり降りたことで、彼女と約束した大切な時間が迫っていたのかもしれない。ふと思うのであった。



白山別当出合駐車場。今までの様子とは打って変わり、あわてて山靴を履きかえる大宮氏。

《 まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15 》

会員の動き・しゃばの動き

■大ふくべ山の大きな池

中宮スキー場から大笠山へ連なる尾根に大瓢箪山があり、頂上付近に大きな池が有るらしい。尾根までは車道、1339ピーク（中宮山）までは歩道があり、ここから先はヤブこぎだったが、有志が道を付けていると聞く。メススジの夢は、まだまだ続く。

■展翅できないセミ

セミはチョウと違って羽が手で触れ、上翅と下翅は連結するので展翅はすこぶる簡単だが、展足だけの標本が多い。メラミンフォームを使って展翅と展足を同時に行う技も有るが、展翅すると標本箱に入る数が減ってしまうという情けない事情がある。

■フン染め

以前にも紹介した虫の糞を使った染め物の話。人気があるらしく伊丹市の昆虫館では品薄らしい。熱烈な愛好家がいる、昆虫館に問い合わせでフン集めをしていると聞いたが、染め物用にとフンが販売されているとも聞いた。

■燈火採集の勧め

今年から完全フリーになる富沢氏の目標は、能登を中心とした年60回の燈火採集。月が暗く燈火に向くのは1ヶ月に10日程とすると1年で120日。厳冬期や大雨など、できない日も多々あり、かなりハード。

■海を渡るアサギマダラの航法と飛翔高度

春の北上は、高層風を利用して一気に長距離を移動し、秋の南下は、より地上に近い高度を小刻みに上昇と下降を繰り返しながら移動すると、平井規央氏がアサギの航

法を想定していた。石川県の記録は、北上21件の平均日速は47kmに対し、南下271件の平均日速は18kmと合致する。この想定、2003年の「昆虫と自然」に掲載されていたが気付かなかった。

■ミツバチを呼ぶラン

ニホンミツバチを強烈に誘引し、分蜂群を巣箱に取り込むのに利用されている。シンビジウムの仲間のキンリョウヘンと呼ばれるのがそれで、ひとつひとつの花の付け根から誘因物質を出す。ところが、ニホンミツバチにしか効果がなく、セイヨウミツバチは誘因されないなど奇妙この上ない。

■ムシャクロツバメシジミ

去年10月、名古屋市西区の川べりで見つかったらしいが、街中の小さなシジミに眼を留めた事やクロツバメと違うと気付いた点がすばらしい。虫好きはとかく街中の虫は無視しているが、昨今の外来種事情から街中こそ要注意なのかもしれない。

■ギフチョウ近し

スギ花粉の飛散が「少ない」から「やや多いに切り替わった。これが、「多い」から「ひじょうに」と替わる頃、ギフチョウのお出ましとなる。

■飛んでいたのは花粉だけ

3月4日、小松辺りへ様子見に出かけた細沼氏、日差しの割に気温が低く、春はもう少し先だった。この時期、いつも天気気がなってソワソワし、重度の花粉症にもかかわらず、舞姫を見るまでは何度もフィールドで出かけてしまう。

■今年も飼育地獄

ゼフが千卵以上、その他にもタテハの幼虫などもろもろの越冬態を抱えたH氏。そろそろ飼育シーズンになるが、各種食草の準備や餌の交換、容器の掃除などなど考えると、あまりの数に気が遠くなる。

■3月10日

1990年はギフチョウが飛んでいたが、今年は金沢市街地で新雪が約10cm。風は冷たく、スギ花粉の飛散も少ないので、舞姫の登場は、しばらく先か。

■目覚めると隣家の屋根が白い

3月15日、また降った。そろそろフィールドに出ようと構えていたのに、出鼻をくじかれる。体に毒素がたまり続けている感じで、フィールドで早く身軽になりたい。

■ヒメシジミの幼虫探し

ヒメシジミの食性は極めて広いが、石川県では何を食べているのか分かっていない。5月下旬頃、昨年おびただしい数がいいた一里野スキー場に行けば、幼虫や食草は簡単に見つかるだろう。

■例会の記録■

2月13日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、石川県が進めているイカリモンハンミョウ調査の話を井村会長が紹介。再発見時は、群飛も観察できたが今は大きく減少した。原因は、海岸浸食によって生息地の砂浜がやせたためと思われるが、どんな環境でどのように越冬しているのか誰も知らない。遺伝子や飼育などいろんな事が調べられているが、保護に最も必要な1年を通した調査が成されていない。

その他の話題は、ヒメシジミはどこまで見つかるか、釈迦林道のクモマベニとキベリ、夢にまで見たヒサマツだったが、3冊の横山図鑑、新湊のヤマトオサムシダマシ、佐渡へ虫採りに行こう、金沢のガチャにムシコレがあった、展翅したいが展翅できない、などなど。

参加は、井村、松井、池田、大宮、浅地、細沼、田辺の7人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

松井正人：奥獅子吼山周辺でアカエゾゼミ調査を実施	1
指田春喜：2012年蝶類採集（観察）報告	4
富富宏和：祝 カップル誕生	7
松井正人：大宮氏に付き添われて白山調査	8
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	11

翔 227号

Tobu 2014年4月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

